

# 鹿大に焼酎学講座

鹿児島大学（鹿児島市）

は二〇〇六年度から、農学部と産学官連携による「焼酎学講座」（仮称）を開設する。後継者育成や新技術開発による本格焼酎の研究拠点を目指す。講座の運営資金として、鹿児島県や県内の焼酎メーカーなどが五年間に総額五億円規模を寄付する予定。十三日、伊藤祐一郎知事が同年度一般会

## や研究 法や 製造 歴史 研究

計当初予算案に関する記者

会見で明らかにした。

同予算案によると、県は

（28面に関連記事）

同講座設置支援事業費として

同講座の内容は、焼酎製 一千万円を計上する。設

### 新年度開設、県が発表

造法、麹・酵母の開発、 備準備や研究補助のために  
本格焼酎の歴史と文化の体 四月から派遣する技官の人  
系化など。関係者によると、 件費にあてられる。県商工  
全国の大学で焼酎学を専門 政策課は「焼酎業界の資質  
に研究する講座は初めてと 向上に向けた取り組みを維

## 5億円寄付へ

持するためには研究拠点は必  
要」としている。五年間継  
続し、総額五千万円を負担  
する。焼酎メーカーなどの  
負担金額は、五年間で四億  
五千万円程度となる見込  
み。

伊藤知事は「発酵学の現  
状と、未来の発展の可能性  
を探る講座。うまくいけば  
焼酎のさらなる発展が期待  
できる。多様なニーズにあ  
った焼酎づくりを目指して  
ほしい」と期待を語った。

カード  
メーカー  
メ県  
一方、鹿大は「最終的な  
寄付額が確定していないの  
でコメントできない」とし  
ている。

# 鹿大に焼酎学講座

## 人材育成に期待

県内業界関係者 負担金にとまどいも

鹿児島大学農学部は二〇〇六年度に開設される産学官連携の焼酎学講座。いまや、国民酒、といわれる焼酎を体系的に学ぶ場ができ、鹿児島県内の焼酎業界はブーム定着につな  
がると歓迎する一方、寄付をする業者のなかには「負担が大きい」などの声も聞かれた。

(一面参照)

濱田酒造(いちき串木野市)の濱田雄一郎社長(左)は「焼酎は日本を代表する蒸留酒」なのという  
あるが、学問としての場があるが、鹿見島にはなかつ

た。非常に素晴らしいことだ。非常に素晴らしいことだ。喜ぶ。小正醸造(日置市)の小正芳史社長(左)は「総論としては賛成。鹿児島が発祥という点からみても、鹿大と産官が一体

となって人材を輩出するのはいいことだ」と評価。県内各業界全体での負担金額は年間一億田んぼになる見込み。業界発展のためにも講

座は必要」としながらも「負担金額が大きいため検討中」と話す。こうした業者もあった。か「しほの食を語る」顧問の八幡正則さん(左)

は「かつて日本の醸造学は京都大と鹿児島高等農林学校(鹿大農学部の前身)が双へきであり、ようやく長年の意願がかないぞうだ。焼酎は鹿児島独特の風土が生み出すもので、地元の研究者はどろしても必要。酒造会社の勉強の場としても、業界の積極的な協力をお願したい」と注文した。